

# 東川農業の未来を語る

4月10日、今年度は町の「東川町新まちづくり計画2024」とJAひがしかわの「第17次東川町農業振興計画」がスタートする節目であること、今年7月には「ひがしかわライスターミナル(精米工場)」が本格始動することから、菊地伸東川町長と牧清隆JAひがしかわ組合長に「東川農業の未来を語る」をテーマに対談いただきました。現在、町内では国営緊急農地再編整備事業が進められており、JAひがしかわではひがしかわライスターミナル建設や、輸出米、資源米(ライスレジン)に関する事業など、大型事業に取り組んでいます。今回は対談を通して、それらの事業や結果、感じていることを紹介します。



▶菊地伸東川町長

▲牧清隆JAひがしかわ組合長

- ひがしかわライスターミナル(以下、ライスターミナル):米の乾燥調製貯蔵施設と、長期保存や鮮度保持のための最新機能を備えた精米施設。
- 国営緊急農地再編整備事業(以下、国営):国が事業主体となり農地区画整理など、効果的な農業生産基盤のために必要な整備を行う事業。
- 資源米:食料ではなく資源としての米。東川町ではライスレジン(お米のバイオマスプラスチック)ごみ袋に利用。

## ●国営緊急農地再編整備事業の成果と期待は?

組合長・国営の基盤整備の進捗は今年度の事業が終わると約4割というところ。整備が進んだ所では、管理がしやすい、生産性が上がったと喜んでいただいています。予定より遅れている部分もありますが、期成会と行政、JAが一体となって進めていきたいと思います。

ことよってスマート農業、作業の効率化が進み、生産者の作業負担は軽減されてくると思います。生産基盤がしっかりすることは、東川の水田を維持していくには本当に重要な事業。すべて(作業効率化、負担軽減、水田維持)が関連して良い方向にいろいろな事業を進めています。

町長・町の基幹産業・農業が持続可能なものになり、さらに発展すると考えると、農家戸数が減少しているなか、作業の効率化と所得を上げる面で大規模化は必須の事業。水田を中心とする農業が、将来にわたり継続することが重要であり、町は今順調に整備にかかる基金の積み立ても行っており、しっかりと支援したい。

ライスターミナルの運営にもこの事業は必須で、もともと基礎となる事業で期待は大きいです。

## ●ライスターミナル本格稼働への期待と効果は?

組合長・ライスターミナルの事業は国の補助事業を活用しつつ、東川町からの大きな支援をいただいて実現できる事業です。ライスターミナルができることは(粳(もみ)での原料受け入れは来年から)、粳受けから乾燥調製、粳摺り(すり)、精米して商品化と、一貫して町内でできるのが町・JAの大きな強みになってくるでしょう。生産者が自己完結で作業していたものが、ライスターミナルに出荷することで、作業の効率化や設備投資の抑制にもつながる。国営の基盤整備と一体で進められていることに感謝しています。最新鋭の設備を備えた精米工場はこれから進めていく輸出戦略にも大きな期待ができます。また、精米工場に導入される特殊な精米機で栄養価を残す精米は、高機能の「健康米」として全道全国の食卓に届けられ、また東川米の価値が上がると期待しています。町内のふるさと納税についても寄与できる部分だと思っています。

## 町長・一番期待しているのは東川米というブランド米。この先さらに価値が向上するでしょう。東川町は今魅力ある町だと言われていますが、まちづくりの成果が東川米の魅力と連携して価値を上げていく、そしてそれを町民の皆さんが共有・共感をすることがとても大事になってくると思います。東川米は美味しいとしっかりと評価をいただいているので、JAと町、商工業も連携しながら、どこ

に行っても皆、東川米を食べている。カフェや飲食店に行っても東川米が使われているというように、町内消費をいかに拡大するか。ライスターミナルで精米をして商品も出荷できることと合わせて、配達機能での連携も進めたいですね。

## ●国営緊急農地再編整備事業とライスターミナルは、未来の東川農業に対する投資となると思いますが、まちづくりのなかでの農業のポジションは?

町長・開拓当時から東川町は農業を基幹産業として発展してきた。農業が強固なものとして確立しているため、他の業に携わる人たちも豊かに生活できています。自然が豊かで、農村景観が素晴らしいのが東川の一歩の魅力。町がこのまま持続して発展するために農村景観を守るのが絶対的な条件で、住んでいる人たちもそう望んでいると思います。農業をしっかりと守っていくことを、行政も町民もどう支えていけるか。東川町の一番のまちづくりの成果は人づくりであると思っていて、今年度から新教科Globalの中に、農業への学びも取り入れます。地域の産業を子どもたちがしっかりと理解することによって、未来を担う人材に成長してくれることを意識して進めたいと強く思っています。

組合長・JAは「魅力ある産地づくりと

持続可能な農業の実現」がテーマで、魅力ある産地づくりは町民がその景観も含めて東川に住んで良かったなと思えるような環境保全など、農業の機能を発揮したなかで継続してどう農業を営んでいくかに重きをおいて農業振興計画を策定しています。行政とも連携しなくてはならないですし、農業者の子どもたちも少なくともなつてきていますから、活動はJA内部でも連携をして進めたいと思っています。

### ●輸出や資源米をつくるという考え方、ごみ袋について

**組合長**…輸出の令和5年度実績は9か国のなかで440t。令和6年度は700tを目標としている。現在取引している国を含めて新規輸出先を増やして対応したいと考えて計画を進めています。最終的には東川町で生産される1割の1200t以上を目標に海外に輸出し、町内の生産基盤、生産者の所得の確保は国の交付金なども活用しながら進め、生産数量を増やして取り組みたいと思っています。

**町長**…資源米の話を最初に聞いたときは本当に素晴らしいなど。農業を持続可能なものにするために、4月からライスレジンを利用した家庭用ごみ袋を採用しました。農業・資源米に対する理解が広がって、農業を応援しようという機運も高まると思います。

ます。JAは「ひがしかわアグリ2050宣言」、町は「ゼロカーボンに取り組む適疎な町宣言」をして、カーボンニュートラルに取り組む意思がある。町はゼロカーボン実行計画を策定するので、その中にも資源米の活用を明記したいと思っています。

### ●日本語学校など、留学生との連携は？

**組合長**…町内には日本語学校がありませんから、留学生含めいろいろな人材が必要です。輸出先は英語圏が多く英語が必要な部分もあり、職員として仕事していただける人材がいれば積極的に募集して、人材確保していきたいと思っています。海外への輸出の仕事をしなから、母国でも東川農産物の消費拡大事業をしていただくような働き方ができればと思っています。

### ●今後の農業振興公社の役割は？

**組合長**…今後は生産者人口が減ってきて、生産農家は167軒、水稲生産は113軒、数年後には100軒を切る試算が出ています。国営やライスターミナルも進み、これからというときに作る人がいないと基幹産業を守る事ができないので、作業の委託も含めて労働力支援、作業支援を展開していきたいと思っています。まずはその農作業支援を農業振興公社がどれだけできるか。時代によっ

て求められるものも変わり、それに対応していく支援体系や農業振興公社の事業展開をしていきたいと思っています。

**町長**…農業振興公社はそれぞれの時代で役割が変わってきている気がしますが、農家戸数が減少しているなか、どう役割を発揮するのかというところ。今だけ考えたと規模拡大がある程度スムーズにいつているが、これまでの経過を見ても農家戸数の減少は想像より早いペースで進んでいて、今後も冷静にとらえておかなければならない。後継者育成だったり、農業技術の知恵だったり、農業振興公社がどこを支援していくのかを考え、時代に合わせた対応を柔軟に実行していくことが必要だと思っています。

### ●最後に東川農業の将来性、未来像について

**町長**…東川農業は、JAを中心に生産者と共に運営されていて、他の産地にはない取り組みができています。開拓から受け継がれる東川農業の活動から美しい農村景観が築かれ、東川町固有の美味しい水や自然などは、農業に最適なポテンシャルとなっています。それをさらに伸ばす町の取り組みが、東川米や東川サラダなどの農業生産物の付加価値向上につながっていくと思うので、産業間連携をさらに強め、経済循環の中で、農業も他の産業も強くなる

ことが、他の産地にはできない水田を中心とした産地の「東川モデル」がさらに成長する可能性は非常に大きいと思います。

**組合長**…入植当時から水があるこの町に適した作物は水稲だと農業が始まったのだと思います。時代が流れて生産人口が減っていくなかにおいても、基盤整備をはじめライススターミナル、スマート農業を取り入れ、また東川の農業の新しい時代が来るのではないかと。20年先になってもやはり水稲生産基盤は維持できていて、他の作物に代わることはないと思います。そのなかで、何を準備して何をしていくか、結果を出していくこと。課題はたくさんありますが、一つ一つクリアしていく。ここに暮らす人たちが、学校に通う子どもたち、ここにいるみんなが携わって東川の農業、町を守っていくようになれば良いと思います。産業間の連携はしっかりと今後強化していく。行政とJA、一町村一JAが理想だと思いますので、今後も継続して進めていきたい。その前提には生産者をしっかりと支援し、地域住民の人たちにも、この町にJAがあつて良かったと思われるような、地域一体となった展開をしていきたいです。